

日本健康医学会雑誌に投稿される会員へのお願い

現在、日本健康医学会雑誌への投稿数は、年間 50 件近くあります。投稿数の増加は会員の方々の研究活動が活発であることを意味しており、非常に喜ばしいことです。しかし、投稿原稿の中には、査読以前の初歩的な問題のために掲載まで時間を費やすものが混じっています。投稿される前に、以下に記すことをお読みいただくことで、無駄な時間を省くことになると思います。なお、学術論文を書き慣れた方には当たり前の事柄ですので、読み飛ばしていただいて構いません。

1. 論文のフォーマットについて

投稿規定には、「原稿は和文・英文ともに 10 から 12 ポイントの文字で A4 用紙にダブルスペースで印字する。」と記しています。しかし、論文の中には、学会誌の印刷時フォーマット（10 ポイント未満の印字、2 段組、図表挿入）にわざわざ合わせてこられる方がいます。刷り上がりの頁数を確認されているものと推察しますが、小さなポイントで 2 段組印字された原稿は、書き込みができないなど、査読に当たって難渋することがあります。投稿規定どおりに印字していただくことをお願いします。1 頁あたり 1000 字（40 字×25 行）をひとつの目安としてください。

和文における漢字の使用は「現代仮名遣い」に従ってください。原則として、漢字の使用は、名詞、動詞、形容詞、形容動詞に限定されるのが無難です。すなわち、及び、並びに、～等、～の際、即ち、などは平仮名表記となります。

また、英文の場合も必要以上にスペースをとる、逆にスペースが必要なところを詰めている論文がしばしばあります。ピリオド、カンマ、コロン、セミコロンの後は 1 文字分空けてください。カッコと数学記号（±、< などが該当します）の前後も 1 文字分空けてください。また、単位と数値の間も 1 文字空けてください。なお、英文の場合はすべて半角文字を使うことが重要です。数学記号やギリシャ文字も半角を使用するのが原則です。

多くの論文がワードで文章、エクセルで図表を作成されています。ワードが使われる場合、ワードに備わっている、箇条書き機能、タブ機能、見出し機能などはすべて解除して文章を作成することを勧めます。いわゆるオートフォーマットとして初期設定されているものをすべて解除するとい

うことです。とくに箇条書きについては、ワードのバージョンやPCの基本OSに伴って異なる状態になることがあるので注意が必要です。

ワード以外で図表を作成した場合でも、文献を含めた本文のあとに貼りつけ、本文と図表を一度に印刷できる状態で提出してください。ただし、エクセルで作成された表は、エクセルのファイルで提出していただくと間違いがないです。ワードに貼り付けた場合、ワードのバージョンやPCの基本OSによっては正しく読み取れないことがあります。また、エクセルで作成された図を、初期設定の状態で提出することは勧めません。文字のサイズとフォント、さらにグラフ上の記号、線、塗りつぶしに十分に注意してください。日本健康医学会雑誌は白黒印刷です。カラー印刷ではありません。カラーで見分けられる記号、線、塗りつぶしは白黒印刷では見分けられません。記号の形を変える、線の種類を変える（太さ、点線・実線などで区別）、塗りつぶしも色ではなく柄で見分ける、などの配慮をしてください。エクセル上である程度作成したものをパワーポイント、あるいは適切なドローソフトに取り込んで修正することが必要です。

図表は投稿規定にあるように、1枚の用紙に1つずつになるように作成してください。エクセルの場合は1つのシートに1つの表または図、パワーポイントの場合は1つのスライドに1つの図ということです。

2. 論文執筆上の注意

緒言に相当する部分には、研究の背景、問題となっている事柄、研究目的などをコンパクトにまとめてください。用語の定義についても、緒言の中で述べるようにしてください。研究方法のところで、文ではなく、単語を羅列される方がいますが、必ず文章にしてください。

結果を述べる場合、好みの問題かもしれませんが、「表1は～を示している」「～を図1にまとめた」などの表現を記すことを勧めます。学会の口頭発表において図表を説明するのと同じように、図表のどの部分に着目するのもかも記してください。それから考察はデータにもとづいて行ってください。データがバックグラウンドミュージックにしかなくない論文がしばしばあります。

引用文献の記載に関しては、投稿規定どおりにしてください。日本健康医学会雑誌は引用論文の著者名は全員記すことになっていますので注意してください。また、同じ文献を複数回引用する場

合、「既出4)」のような記載はしないでください。必ず、引用番号をつけてください。

最後に、文章を作成された場合、主語と述語の関係がおかしくなっていないかを確認してください。文章中の修飾語をはずしていくことで確認は可能です。長い文章にすると、途中で主語が変わってしまうことがよくあります。ゆえに可能な限り短い文章を作成することを勧めます。

日本健康医学会雑誌 編集委員長

吉田宗弘